地下鉄開業の歴史　開通・開業ポスター

高度成長期の地下鉄

荻窪線（新宿〜荻窪・方南町間）

現在の丸ノ内線の新宿〜荻窪・方南町間は、1961（昭和36）年2月8日の新宿〜新中野間、中野坂上〜中野富士見町間開通時は荻窪線という路線名でした。1972（昭和47）年4月1日に荻窪線の路線名は廃止され、丸ノ内線に統一されました。

荻窪線全線開通ポスター

丸ノ内線

- 1951 昭和26年　着工
- 1953 1400形
- 1954 1500形
- 1954 昭和29年　池袋―御茶ノ水間開通
- 1955 1600形
- 1956 1700形
- 1956 昭和31年　御茶ノ水―淡路町間開通
- 1956 400形　淡路町―東京間開通
- 1957 昭和32年　東京―西銀座（現銀座）間開通
- 1958 1800形
- 1958 昭和33年　西銀座（現銀座）―霞ケ関間開通
- 1959 1900形
- 1959 昭和34年　霞ケ関―新宿間開通（池袋―新宿間全線開通）
- 1959 2000形
- 1959 昭和34年　着工

日比谷線

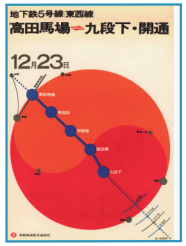
- 1961 昭和36年　新宿―新中野間開通
- 中野坂上―中野富士見町間開通
- 新中野―南阿佐ケ谷間開通
- 1961 昭和36年　南千住―仲御徒町間開通
- 1962 昭和37年　南阿佐ケ谷―荻窪間開通
- 中野富士見町―方南町間開通（新宿―荻窪・方南町間全線開通）
- 1962 昭和37年　北千住―南千住、仲御徒町―人形町間開通
- 1962 昭和37年　着工

東武伊勢崎線と相互直通運転を開始

- 1963 昭和38年　人形町―東銀座間開通
- 1964 昭和39年　霞ケ関―恵比寿間開通
- 恵比寿―中目黒間開通
- 東銀座―霞ケ関間開通（北千住―中目黒間全線開通）
- 1964 昭和39年　高田馬場―九段下間開通

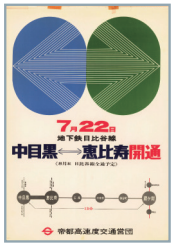
東急東横線と相互直通運転を開始

- 1964 5000系

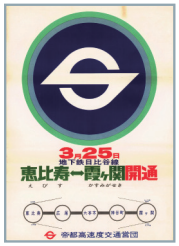


高田馬場―九段下間開通ポスター

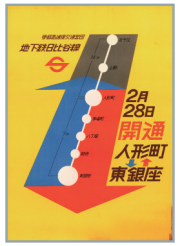
日比谷線全線開通ポスター



中目黒―恵比寿間開通ポスター



恵比寿―霞ケ関間開通ポスター



人形町―東銀座間開通ポスター

日比谷線人形町〜東銀座間開通ポスター

人形町〜東銀座間開通時のポスターです。

デザインは多摩美術大学教授の山名文夫氏に委嘱しました。

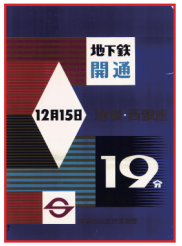
これまでの開通ポスターにはない明るい色調とストレートな表現で、交通機関に欠かせない"速さ"を矢印で表したデザイ

山名文夫（やまな ふみお）

1897（明治30）年7月17日〜
1980（昭和55）年1月14日

大阪の赤松麟作画塾で洋画を学び、その後、プラトン社に入社。雑誌「苦楽」の挿絵を担当したのち、資生堂に入社。「資生堂スタイル」を確立し、ほかに紀伊国屋書店のロゴ、新潮文庫のブドウのマークなども手がけました。

多摩美術大学の図案科教授として後進の指導にあたり、商業デザイナーの地位向上に努めました。



池袋―西銀座間開通ポスター

池袋―御茶ノ水間開通ポスター

池袋―御茶ノ水間起工式

神田川を渡る丸ノ内線

池袋―御茶ノ水間発車式

都営地下鉄

- 1960 昭和35年　浅草線　押上―浅草橋間開通
- 浅草線　京成押上線と相互直通運転開始
- 1962 昭和37年　浅草線　浅草橋―東日本橋間開通
- 浅草線　東日本橋―人形町間開通
- 1963 昭和38年　浅草線　人形町―東銀座間開通
- 浅草線　東銀座―新橋間開通
- 1964 昭和39年　浅草線　新橋―大門間開通

1960 浅草線 5000形

都営　浅草線開通式

浅草線と三田線の路線名

浅草線と三田線は最初の開通時に路線名はついておらず、都市交通審議会答申の路線計画に基づき、それぞれ、浅草線は都営1号線、三田線は都営6号線という路線名でした。1978（昭和53）年に一般公募により路線名が決定し、7月1日から浅草線、三田線、新宿線（同年12月21日開通）に変更されました。

戦後初めての地下鉄開通時のポスター

1954（昭和29）年1月20日に営団地下鉄が戦後初めて地下鉄池袋〜御茶ノ水間を開通した際のポスターです。

グラフィックデザインで知られた洋画家宮永岳彦氏に委嘱しました。

宮永岳彦（みやなが たけひこ）

1919（大正8）年2月20日〜
1987（昭和62）年4月19日

美人画で知られた洋画家で、松坂屋百貨店に勤務しながらポスターや書籍等の表紙、装丁等のデザインで活躍しました。「べんてるくれよん」のパッケージや「小田急3000形SE車（特急ロマンスカー）」の内外装のデザインなども手掛けました。

小石川車庫

地下鉄のあゆみ　社会の動き

- 1951 昭和26年　サンフランシスコ講和条約調印
- 1952 昭和27年　都市計画第4号線 池袋―神田間を池袋―御茶ノ水間に変更
- 1953 昭和28年　東京都市計画高速鉄道網5路線101.8キロ告示
- 営団地下鉄の路線名称を正式に決定
- 浅草―渋谷間を「銀座線」、池袋―新宿間を「丸ノ内線」と呼称決定
- Sマークの登場
- NHKテレビ本放送を開始
- 1955 昭和30年　運輸省の附属機関として都市交通審議会を設置
- 1956 昭和31年　乗車券自動発売機を設置（新橋・銀座）
- 都市交通審議会第1次答申
- 東海道本線全線 電化完成
- 1957 昭和32年　東京都市計画高速鉄道網改訂（建設省告示第835号）
- 1958 昭和33年　ヨーロッパ経済共同体（EEC）発足
- NASA発足
- 特急こだま（東京―大阪―神戸）運転開始
- 1959 昭和34年　丸ノ内線 国会議事堂前駅に、営団設立後初めてのエスカレーター設置
- 東海道新幹線起工式
- 1960 昭和35年　PR誌「メトロニュース」発刊
- 都市計画第4号線新宿以西を「荻窪線」に
- 都市計画第2号線を「日比谷線」と呼称決定
- 名古屋市営地下鉄 東山線
- ATO（自動列車運転装置）実験成功
- 1961 昭和36年　ソ連、世界初の有人宇宙飛行を成功させる
- 営団 日比谷線 ATC（自動列車制御装置）導入
- 営団 日比谷線 剛体電車線導入
- 1962 昭和37年　都市交通審議会第6号答申
- 東京都市計画高速鉄道網8路線177.5キロ告示
- 東京都の常住人口1000万人突破
- 首都高速1号線開業
- 1963 昭和38年　名神高速道路開業
- 1964 昭和39年　丸ノ内線西銀座駅を「銀座駅」に改称
- 銀座線総合駅誕生
- 荻窪線（現 丸ノ内線）東高円寺駅が開業
- 都市計画5号線を「東西線」と呼称決定
- 東京都市計画高速鉄道網9路線219キロ告示
- 海外渡航自由化
- 東海道新幹線（東京―新大阪）間開通
- 東京オリンピック開催

帝都高速度交通営団